



時事評論家 増田俊男

米中冷戦の黒幕

もし新型コロナを仕掛けた者がいるなら、間違いなく米中冷戦の黒幕と同じだ！

それは間違いなくアメリカ合衆国と中華人民共和国の建国に必要な資金と兵器を出したユダヤ資本だ。

トロツキーとレーニンを助けてロシア革命を成功させたのも同じだ。

Quad(日米豪印)と AUKUS(豪英米)による対中軍事包囲網、ウイグル人権問題を対中攻撃材料にした北京冬季五輪外交ボイコット、中国体制批判の為の民主主義サミット等々、アメリカは中国批判に繋がる情報ならまるでダボハゼの様に飛びつき即対中攻撃を開始する。

とにかくバイデン大統領に課せられた任務は中国との対立を激化させることだ。

小冊子 Vol.124 第四章「東西冷戦の仕掛け人」のページで、合衆国の建国(独立戦争)も中華人民共和国の建国(共産・国民党戦争)も、ユダヤ資本の軍資金と兵器供給が無かったらあり得なかったと述べ、歴史上の事実に基づいて解説している。

異色の兄弟を子に持つ親が二人を人々が見えるように家の外に連れ出して無理やり喧嘩をさせた。

親は兄の方が勝ちそうになると弟を助け、兄が劣勢になると兄を助け、結局最後まで勝負がつかず、用意された勝利のトロフィーは兄弟二人のモノになった。

兄弟は助けてくれたお礼に二人のトロフィーを親に差し出した。

このストーリーが米中冷戦の総てを物語っている。

兄はアメリカ、弟は中国、親はユダヤ独占資本、賞品トロフィーは One World(世界政府)。

真珠湾攻撃の真相は 30 年後の 1971 年にルーズベルト大統領が仕掛け人で日本のある人物が共犯であったことや、2031 年になるとセプテンバー・イレブン(9/11/2001)の真犯人とアルカイダとは何の関係もなかったことが分かる。

(私は WTC 二棟を解体業者が爆破したことを知っている)

金正恩(北朝鮮)のように政治力学をマスターした国家指導者は極稀である。

ユダヤ資本にとって幸いかな、バイデンと習近平の兄弟は親の教育が良かったので、よくわきまえて冷戦を戦っている。

派手に殴り合っているように見せているだけで、本当に殴っていない。

兄弟は内心微笑んでいる。

クワッドなど日本が本気になっていると必ず足をすくわれること請け合い。

かつての日本の様に戦争の為の戦争をする指導者も多くいるが親に葬られるのがおち。

まあ、後学の為に小冊子 Vol.124 をお読みになってはいかがでしょうか。

今世界に起きていることの裏が見えてきます。

増田俊男の「ここ一番！」大好評配信中！

投資にビジネスに一番役に立つ「ここ一番」。

「明日では遅過ぎるナウな情報」をその場で必ずお送りします。

現在、増田俊男の「ここ一番！」を FAX 又は e-mail にて配信しております。

詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S.リサーチジャパン(株)Tel：03-3956-8888、

HP：www.chokugen.com まで。